

# ReportMagic と日本語化について

作成日：2004 年 3 月 15 日

作成者：川村 通

1	ReportMagic とは .....	2
1.1	ReportMagic とは .....	2
1.2	Analog の COMPUTER 形式ファイル .....	3
2	各種設定ファイル .....	4
2.1	設定ファイルと HTML の関係 .....	4
2.2	rmagic.ini .....	5
2.3	rdata.ini .....	5
2.4	cdata.ini .....	6
3	日本語化リソースファイル利用時の注意点 .....	7
3.1	設定項目 .....	7
3.2	グラフ表示の不正への対応方法 .....	7
4	おわりに .....	8

# 1 ReportMagic とは

## 1.1 ReportMagic とは

ReportMagic とは、Analog を利用して集計した結果を表示するためのツールです。Analog で表示するよりも、見た目が優れていることが大きな特徴です。

ReportMagic がログ集計を行うことはありません。ログ集計は Analog にて行い、その結果を'COMPUTER'形式で出力します。ReportMagic は、ファイルを読み込み HTML ファイルを出力する役割を担います。

AnalogのComputer形式のファイル  
(ファイル種類別レポートのみ抜粋)

```
t *f 0.100000%B b
t IRb 1 1516 52.020 .html [Hypertext Markup Language]
t IRb 1 290 22.098 .cgi [CGI scripts]
t IRb 1 46 13.270 .servlet
t IRb 1 12 5.261 .pdf [Adobe Portable Document Format]
t IRb 1 587 3.976 [ディレクトリ]
t IRb 1 1 2.166 .ppt
t IRb 1 4 0.753 .xls
t IRb 1 133 0.457 .css [Cascading Style Sheets]
```



## 1.2 Analog の COMPUTER 形式ファイル

Analog の analog.cfg にて、[OUTPUT]設定項目を[COMPUTER]にすることで、下記のようなファイル（表 1）が出力されます。

このファイルのフォーマットを把握することが、ReportMagic の設定ファイルの理解をはやめてくれます。詳しくは Analog のマニュアルに譲ることにして、簡単な説明を少々行うことにします。

レポート種別	コラムタイプ	フィルタ、ソート条件	データ
t	*f	0.100000%B	b
t	IRb	1 1516 52.020	.html [Hypertext Markup Language]
t	IRb	1 290 22.098	.cgi [CGI scripts]
t	IRb	1 46 13.270	.servlet
t	IRb	1 12 5.261	.pdf [Adobe Portable Document Format]
t	IRb	1 587 3.976	[ディレクトリ]
t	IRb	1 1 2.166	.ppt
t	IRb	1 4 0.753	.xls
t	IRb	1 133 0.457	.css [Cascading Style Sheets]

### (1) レポート種別

先頭列は、レポート種別を示します。

上記の[t]は[ファイル種別レポート]の意味のことです。

### (2) フィルタ、ソート条件

先頭行は、フィルタ、ソート条件を示します。

(ただし、レポートによっては存在しない場合もある。)

### (3) コラムタイプ

表示データの列数とデータタイプを表現します。

上記の場合でいうと、[IRb]は[階層レベル・リクエスト数・バイト数]を示します。

### (4) データ

集計されたデータです。数値のみ表示されていますが、前述したコラムタイプの指定により、その数値の意味を特定することが可能です。

## 2 各種設定ファイル

ReportMagic には、4 つの設定ファイルが存在します。

設定ファイル名	概要
rmagic.ini	レポート生成全体に関わる設定を行います。
rdata.ini	レポート種別毎に設定を行います。例えば、レポートのタイトルやレポート生成形式、表示するグラフの種類などを設定します。
cdata.ini	各レポートにおける表データの列や行に関する設定ファイルです。表示する単位やフォーマット、表に対してフィルタやソートをかけるための設定を行います。
lang.ini	エラーメッセージ、レポートとは直接関係のない項目に関する設定を行います。

### 2.1 設定ファイルと HTML の関係

各種設定ファイルと、出力 HTML の関係を非常に大雑把に捉えると、下記のようになっています。

レポートタイトル、説明、レポートタイプについては、rdata.iniにて設定

行、列データに対するフィルタやソートについては、cdata.iniにて設定

レポートにあまり関係ない部分については、lang.iniで設定

ファイル種別	リクエスト数	全体の数に占める割合
html [Hypertext Markup Language]	1,016	82.2%
xml [Extensible Markup Language]	280	22.8%
css [Cascading Style Sheet]	48	3.9%
pdf [Adobe Portable Document Format]	12	0.9%
txt [Text]	987	79.8%
png	5	0.4%
jpg	4	0.3%
css [Cascading Style Sheet]	123	9.9%

## 2.2 rmagic.ini

rmagic.ini では、レポート生成全体に関わる設定を行います。  
rmagic.ini は、下記のセクションで構成されています。

### (1) statistics

レポート生成に関するセクションです。読み込みファイルの指定、出力するファイルフォーマットなどを指定します。

### (2) reports

レポートの見栄えに関するセクションです。フォントや表示色を指定します。

### (3) GENERAL

概要レポートに関するセクションです。

### (4) QUICK

速報レポートに関するセクションです。

### (5) graphs

グラフに関するセクションです。グラフ出力時に利用するのフォント設定や、グラフ形式の設定を行います。

### (6) NAVIGATION

目次に関するセクションです。

### (7) WEBSITE

レポートの一般的な表示に関するセクションです。

## 2.3 rdata.ini

rdata.ini では、レポート種別毎にタイトルや説明の設定を行います。rdata.ini は、レポート種別をキー値とした設定セクションから構成されます。  
(下記の、[t]セクションはファイル種別レポートの設定例です。)

```
[t]
ShortName = FILETYPE
LongName = ファイル種別レポート
DataName = ファイル種類
ReportType = HierarchicalReport
GraphType = Bar
MostActive = 最もリクエストの多かったファイル種類
Description = <<EOT
このレポートは、リクエストされたファイルの拡張子の統計を表します。
~~以下省略~~
EOT
```

## 2.4 cdata.ini

cdata.ini では、全レポートの行・列に共通する設定を行います。

cdata.ini は、下記のセクションから構成されます。

### (1) General Summary Report Lines

概要レポートの行、列に関するセクションです。

### (2) Standard Reports Column Letters

Analog の COMPUTER 形式ファイルのカラムタイプに関するセクションです。

### (3) FLOOR and SORTBY (cols 1 and 2)

Analog の COMPUTER 形式ファイルのフィルタ条件に関するセクションです。

### (4) SORTBY

Analog の COMPUTER 形式ファイルのソート条件に関するセクションです。

t	*f	0.100000%B	b	
t	IRb	1	1516	52.020 .html [Hypertext Markup Language]
t	IRb	1	290	22.098 .cgi [CGI scripts]
t	IRb	1	46	13.270 .servlet
t	IRb	1	12	5.261 .pdf [Adobe Portable Document Format]
t	IRb	1	587	3.976 [ディレクトリ]
t	IRb	1	1	2.166 .ppt
t	IRb	1	4	0.753 .xls
t	IRb	1	133	0.457 .css [Cascading Style Sheets]

#### Standard Reports Column Lettersセクション抜粋

```
[l]
Type = Level

[R_]
LongName = リクエスト数
Type = Data
Activity = %0 リクエスト処理済
NumberFormat = #

[b]
LongName = 全バイト数に占める割合
Type = Data
NumberFormat = #.##
```

#### FLOOR and SORTBY (cols 1 and 2) セクション抜粋

```
[フィルタ設定]
Col1_Match5 = ^(?!.*?%d*)([%*%]?)([kMG]?)([RBPrbp])
Col1_LongName5 = このレポートは、%3%4単位で、%2 %1 %を
上回るデータを表示しています。
Col1_Result5.4 = <<END
rR リクエスト
bB バイト
pP ページ
END

Col1_Result5.3 = <<END
k キロ
M メガ
G キガ
T テラ
END

Col1_Result5.2 = <<END
% 全体に占める割合が
: 最大値に対する割合が
END

[ソート条件]
Col2_Match1 = ^([rspqbodax])
Col2_LongName1 = このレポートは、%1.
Col2_Result1.1 = <<END
rs リクエスト数をもとにしてソートされています。
pq ページへのリクエスト数をもとにしてソートされています。
bc 総転送データ量をもとにしてソートされています。
d 最終リクエスト日をもとにしてソートされています。
a アルファベットをもとにしてソートされています。
x ソートされていません。
END
```

上記データファイルのカラムタイプ[IRb]は、[Standard Reports Column Letters]を用いて、データの左側から、[階層レベル][リクエスト数][全バイト数に占める割合]を示しています。

また、ソート・フィルタ条件も[FLOOR and SORTBY (cols 1 and 2)]セクションを用いて、このレポートは、バイト単位で、全体に占める割合が 0.100000 %を上回るデータを表示しています。このレポートは、総転送データ量をもとにしてソートされています。を HTML に表示することになります

]

### 3 日本語化リソースファイル利用時の注意点

#### 3.1 設定項目

日本語化リソースファイルを利用するためには、[rmagic.ini]の下記の設定項目を設定する必要があります。

設定項目	設定値	説明
Language	ja	ReportMagic の展開ディレクトリ直下にある lang ディレクトリの中で利用するものを設定します。
Font	Truetype フォントの配置パスとフォントサイズ	マシンにインストールされている日本語 Truetype フォントの配置パスを指定します。

#### 3.2 グラフ表示の不正への対応方法

ReportMagic では、グラフ作成に gd ライブラリ (C と perl モジュール) を利用します。ReportMagic perl 版 gd C 版 gd の順で呼び出されますので、もしも日本語表示がうまくいかないことがあった際には、C 版 gd から順に正常動作しているかどうかを確認する必要があります。

##### (1) C 版 gd の確認手順

gd を make したディレクトリ内に、下記のテストモジュールがありますので、それを利用して、日本語表示が可能であるかどうかを確認します。

- ・gdtestft (freetype2.x 用テストモジュール)
- ・gdtestttf (freetype1.x 用テストモジュール)

テストする前に、上記モジュール内で利用するフォントを指定する必要があります。[gdtestft.c,gdtestttf.c]内のフォント指定部分を変更後(変更箇所はソースを見ればわかります。) メイクしてからテストを実行してみてください。

もしもテストが失敗した場合には、下記の可能性を疑ってみてください。

- ・ コンパイルオプションで、JISX0208 を指定していない。
- ・ モジュール実行時に、正しい gd ライブラリを参照していない。  
(例えば、RedHat だと、/usr/lib にデフォルトでインストールされていることがあります。)

## (2) perl 版 gd の確認手順

gd をビルドしたディレクトリ直下に `demos` というディレクトリがあります。その中に下記のテストモジュールがありますので、それを利用して、日本語表示が可能であるかどうかを確認します。

- ・ `truetype_test` (freetype2.x 用テストモジュール)
- ・ `tff.pl` (freetype1.x 用テストモジュール)

なお、テスト前に利用するフォントの指定を行ってください。

もしもテストが失敗した場合には、C 版 gd を正しく参照していない可能性が非常に高いです。LD\_LIBRARY\_PATH の設定を見直してみてください。

## 4 おわりに

最新版の gd ( ver 2.0.22 ) と freetype(ver2.1.7)を利用して ReportMagic を実行してみたところ、日本語を表示すること自体は問題ないのですが、グラフの縦軸・横軸の出力がうまくいかないようです。(上下反転して表示される)  
ちょっと時間をみつけてデバッグしてみたいところではあるのですが・・・。

### 参考 URL

- \*1. <http://www.reportmagic.org/>
- \*2 <http://www.freetype.org/>
- \*2 <http://www.boutell.com/gd/>